

クリスマスファンタジア

と き 令和7年12月7日(日)

開場 13:45 開演 14:00

ところ 水巻町図書館 視聴覚ホール

おはなしボランティアの皆さんによる、お話し会スペシャル！！

ぜひ、ご家族そろって遊びに来てくださいね★



スタッフ 注目の一冊

『捨てられないずかん』

米田まりな/著
大和書房

みんなの家に「捨てられないもの」ってたくさんありますよね。

たとえば…「短くなったえんぴつ、使いかけのカラーペン」気が付けばあちらこちらに転がってる。

「名前入りのキーホルダー、絵や工作の作品」思い出がつまってて捨てられない。

「おばあちゃんがくれた服、友達がくれたおみやげ」捨てたらくれた人が悲しむかも…。

そんな捨てられないものをいくつか取り上げて、かたづけのためのアドバイスをたくさん載せています。

捨てるだけでなく、お気に入りのものたちと楽しく暮らすためのかたづけ方や、おすすめ収納グッズも紹介。家族みんなで納得できるアルアルな一冊です。

(スタッフ S)

映写会(場所:視聴覚ホール*無料)

親子deシネマ

今月はお休みです。

次回は 12 月 21 日(日)です。

図書館deシネマ

11 月 18 日(火)



ふるカフェ系
ハルさんの休日

開 場:10 時 45 分
上 映:11 時 00 分
上映時間:2 時間

水巻町図書館・歴史資料館

よむぞうだより

令和7年11月 No.225

11月のイベント案内

おはなし会(場所:おはなしのうち)

たんぽぽ	1 日(土) 14:00から	赤ちゃんとおはなし会(図書館スタッフ)	12 日(水) 11:00から
ともしびの会	8 日(土) 11:00から	絵本ミュージカル	8 日(土) 14:30から
ぷぷら	15 日(土) 14:00から	図書館スタッフおはなし会	29 日(土) 11:00 から

ピノキオ文庫	22 日(土) 11:00から		
--------	-----------------	--	--

ピアノ演奏(場所:エントランスホール)

渡邊 博さん	毎週土曜日 12:00から	その他のイベント(場所:視聴覚ホール)	親子でワクワク!! 徳永玲子さんと楽しむ絵本のひととき 16 日(日) ①13:30 から ②15:00 から ※参加には整理券が必要です
角田 千恵さん	第2火曜日【11 日】 11:30から		
CHIKAさん	第1・3水曜日【5・19 日】 11:30から		

*行事は予告なく変更・中止になることがあります。

2025年11月

日	月	火	水	木	金	土
						1★
2	3	4	5★	6	7	8★
9	10	11★	12★	13	14	15★
16★	17	18★	19★	20	21	22★
23	24	25	26	27	28	29★
30						

2025年12月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3★	4	5	6★
7★	8	9★	10★	11	12	13★
14	15	16★	17★	18	19	20★
21★	22	23	24	25	26	27★
28	29	30	31			

■は休館日、★マークは、図書館で催しのある日です。

水巻町図書館・歴史資料館

開館時間 10 時～18 時

☎807-0012

福岡県遠賀郡水巻町古賀 3-18-1

TEL 093-201-5000 (図書館)

TEL 093-201-0999 (歴史資料館)

FAX 093-201-0995 (共通)



<https://library.town.mizumaki.lg.jp>

蔵書点検へのご協力ありがとうございました

9/30 から 10/10 まで年に一度の蔵書点検を行いました。蔵書点検は、紛失している本はないか、正しい棚に戻っているかなどを確認する図書館にとって大事な作業を行う期間です。

また、普段はできない館内の整備も行いました。プチリニューアルしている所がありますので、いくつかお知らせいたします。

▼おはなし会の予定はここでチェック！

変更点

- おはなしのおうちの壁にイベント案内板を設置しました。
- DVD の場所を一部移動しました。
- カセットテープのリストを作成しました。
リストから借りたいカセットを選んで、カウンターにお伝えください。

ご不明な点等ございましたら、スタッフまでお尋ねください。



▲本の整理している様子

10/27~
11/9

読書週間 本が読みたくなる本&ブックガイド



『本を読んだことがない32歳がはじめて本を読む』
かまど・みくのしん/著 大和書房

本を一度も読んだことがない男・みくのしん。相棒のかまどと一緒に誰もが知る名作にチャレンジ！

文章をすべて声に出して読み、1行1行にリアクションをしながら賑やかに進んでいく彼の読書。とても時間がかかるのですが、ハッとさせられる発見がたくさんあります。本に正しい読み方はないし、正しい感想もないことに気づかされるネット発の1冊です。

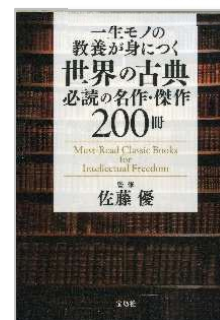
続編の『本が読めない33歳が国語の教科書を読む』もオススメです。

『なぜ働いていると本が読めなくなるのか』
の著者によるブックガイド



『人生を狂わす名著 50』
三宅香帆/著 ライツ社

いつかは読みたい名作・傑作たち



『一生モノの教養が身につく
世界の古典 必読の名作・傑作200冊』
佐藤優/監修 宝島社

中高生向けブックガイド



『青春の本棚』
高見京子/編著
全国学校図書館協議会

『生きるためのブックガイド』
岩波ジュニア新書編集部/編
岩波書店



小学生向けブックガイド



『小学校学年別 知識読みもの240』
福岡淳子・金澤磨樹子/編
少年写真新聞社

『おすすめ！子どもの本』
日本国際児童図書評議会(JBBY)/編
小学館



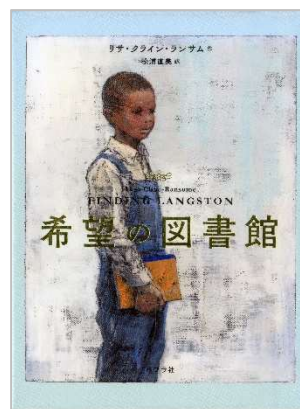
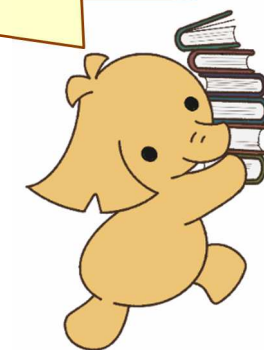
／ おしえて！よむぞう ／

読書週間の始まりはいつ？

終戦の2年後の 1947 年(昭和 22 年)、まだ戦火の傷痕が至るところに残っているとき、「読書の力によって、平和な文化国家を創ろう」と決意をひとつに、出版社、取次会社、書店と公共図書館が力を合わせ、さらに新聞・放送のマスコミ機関の協力のもとに第1回「読書週間」が開催されました。

「読書の秋」と言われるようになったのはなぜ？

中国の唐時代の詩人 韓愈の漢詩に「燈火^{とうか} 稍^{やや} 親^かしむ^べ 可^べく」(涼しい風が吹く秋になって、ようやく灯火の下で読書を楽しめる)という一節があり、ここから秋が読書にふさわしい季節として、「秋^{しゅう} 燈^{とう}」や「燈火親しむ」といった表現が使われるようになりました。これが「読書の秋」の由来のひとつとされています。また、日本では夏目漱石が『三四郎』の中で「燈火親しむ」と引用したことから広まったとされているようです。



『希望の図書館』
リサ・クライン・ランサム/作 松浦直美/訳
ポプラ社

故郷アラバマからお父さんと2人で大都会シカゴへ引っ越してきたラングストン。新しい環境になじめずにいたラングストンはある日、人種に関係なく誰もが自由に入れる図書館を見つけます。そこで自分と同じ名前の詩人の本を見つけ…。